

5. 下高津小学校遺跡(第3次)発掘調査報告書

—賃貸アパート建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

例言

- 1、本編は個人事業者が大東建託株式会社日立支店に委託施工する賃貸アパート建設事業に伴う、下高津小学校遺跡第3次調査発掘調査の報告である。
- 2、発掘調査は土浦市教育委員会によって、平成25(2013)年11月12日から11月26日まで実施した。調査面積は約180m²である。
- 3、発掘調査・整理作業・報告書作成は、比毛君男（上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員）が担当し、宮窪ひろみ（上高津貝塚ふるさと歴史の広場社会教育指導員）、亀井翼（上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員）が補助した。亀井が1・2、比毛が3・4、宮窪が遺物実測と観察表を執筆した。
- 4、発掘調査参加者【所属は平成25年度当時】
比毛君男（上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員）
鈴木隆浩・関口満（土浦市教育委員会文化課文化財係）
宮窪ひろみ（上高津貝塚ふるさと歴史の広場社会教育指導員）
- 6、本遺跡調査に関する資料は、すべて上高津貝塚ふるさと歴史の広場にて保管している。
- 7、調査から当報告書作成まで、下記にご協力をいただきました（敬称略）。記して感謝申し上げます。

茨城県教育委員会文化課 茨城中世考古学研究会 窪田恵一 大東建託株式会社日立支店
株式会社クラス 藤澤良祐

1 調査に至る経緯と経過

当調査は個人事業者（以下事業者）が計画し、大東建託株式会社日立支店に委託施工する賃貸アパート建設事業に伴うものである。以下に調査経緯を記す。

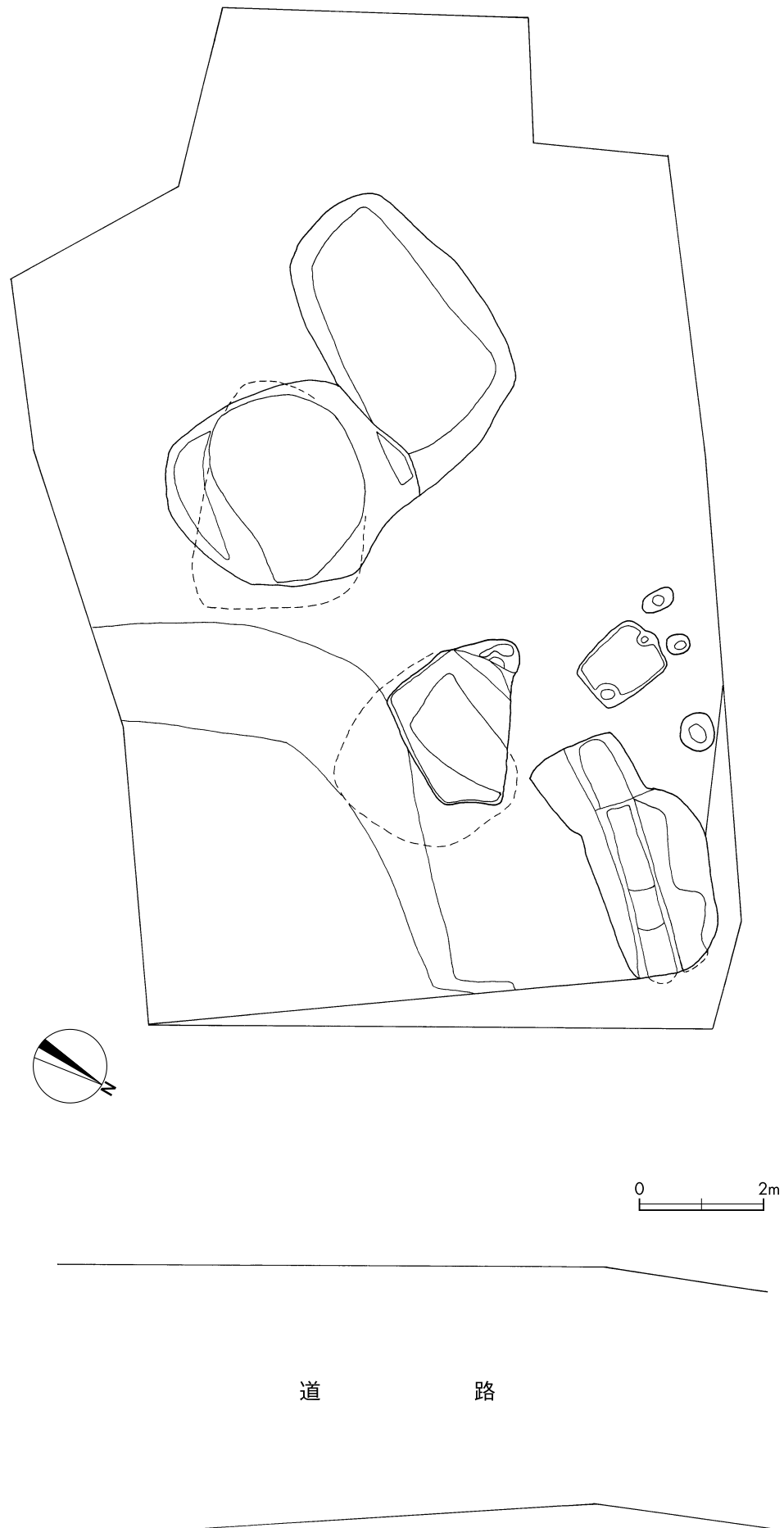
- 平成24年9月20日 事業者より土浦市教育委員会（以下市教委と略）文化課に事業計画地における埋蔵文化財の取扱いについて照会文書が提出される。
- 9月28日 埋蔵文化財の取扱いについて事業者宛に回答。確認調査を行うことで合意。
- 10月5日 事業者より埋蔵文化財試掘確認調査依頼が提出される。
- 10月31日～11月1日 事業地内の試掘確認調査を実施し、埋蔵文化財を発見する。
- 11月16日 試掘調査結果を回答し、今後の取扱いを協議。その結果、事業者から重機・作業員等の提供を受け、教育委員会直営で記録保存目的の発掘調査実施を決定。
- 平成25年2月5日 土教委発第219号にて、埋蔵文化財保護法第93条第1項の埋蔵文化財発掘の届出を茨城県教育委員会（以下県教委と略）委員長宛進達する。
- 11月12日 発掘調査開始。市教委、土教委発第1272号にて県教委に埋蔵文化財発掘調査報告を提出する。
- 11月26日 発掘調査終了。
- 12月3日 市教委、市第1316号にて発掘調査終了確認を県教委に依頼する。
- 12月5日 県教委、文第1999号にて発掘調査終了確認を認める。

以後、平成26年1月から平成27年1月まで整理作業を行う。

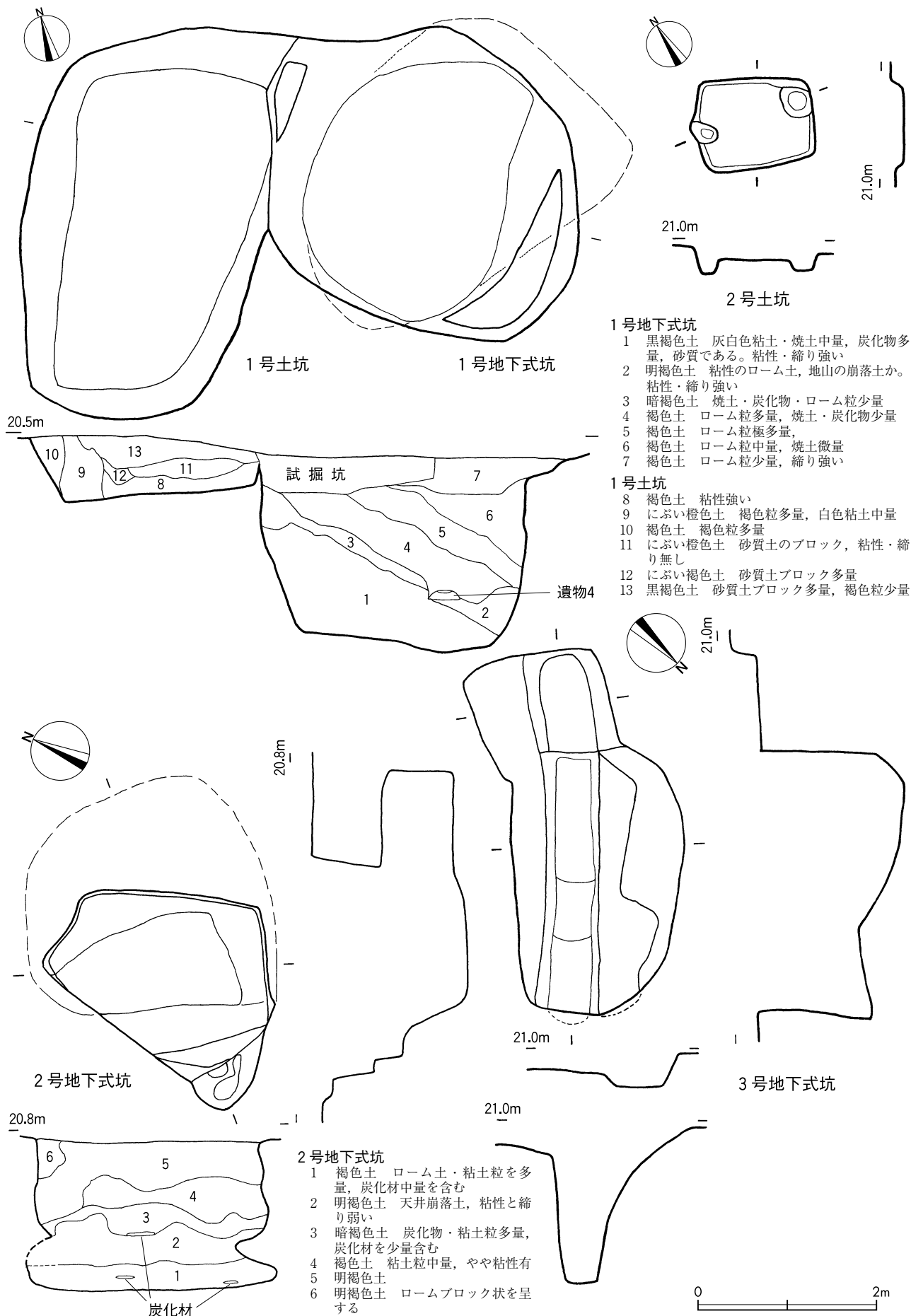
2 遺跡の環境

当遺跡は桜川右岸、標高約20～22mの西に延びる舌状台地上に位置し、北側は桜川低地に面する段丘崖となる。当遺跡に対しては、昭和62(1987)年に第1次発掘調査^{註1}が行われた。平成25(2013)年には、南西から入り込む谷の東側の台地北縁上で宅地造成に伴う第2次調査を有限会社毛野考古学研究所が実施している。第2次調査では、古墳時代の竪穴住居3軒、奈良・平安時代の竪穴住居1軒を発見した^{註2}。なお当遺跡地内には、東西に横断する形で古代東海道駅路が存在したと推定されている。

今回の調査区は遺跡範囲の西端、南東に向けて緩やかに傾斜した谷頭に面する台地上にあたる。現状は畑と荒蕪地で、周囲には個人住宅と共同住宅が点在し、市立下高津小学校に隣接する。



第1図 調査区全体図



第2図 下高津小学校遺跡第3次調査 検出遺構図

3 発見された遺構

調査の結果、中世の地下式坑3基、土坑2基・時期不明の小穴3基を発見した。層位は、遺存状況の良い地点で地表下30cmまでは表土及び耕作土が続き、以下洪積台地を構成する関東ローム層、常総粘土層、龍ヶ崎砂礫層に到る。ローム層の堆積は薄く、確認し得ても厚さ10~20cmで粘土層に至る。試掘時には、低位のトレンチでは180cm以上掘削したが、黒色土のみで地山が発見できない箇所も見られた。なお1号地下式坑の掘り込み底面は、粘土層を抜いて砂層にまで及んでいる。

特筆すべきは、調査区東側はロームを段状に残しながら、他所は全域80cm程削土している点である。段上には掘り込みは見られず、地下式坑等は低位部分に掘り込まれている。本来の旧地形でもロームの自然堆積は浅いと考えられるが、遺構確認面はローム遺存面よりも確実に下位である。人為的に段状に削土し、土地造成を行った可能性は高いと考える。

1号地下式坑【旧SX-1】^{註3}

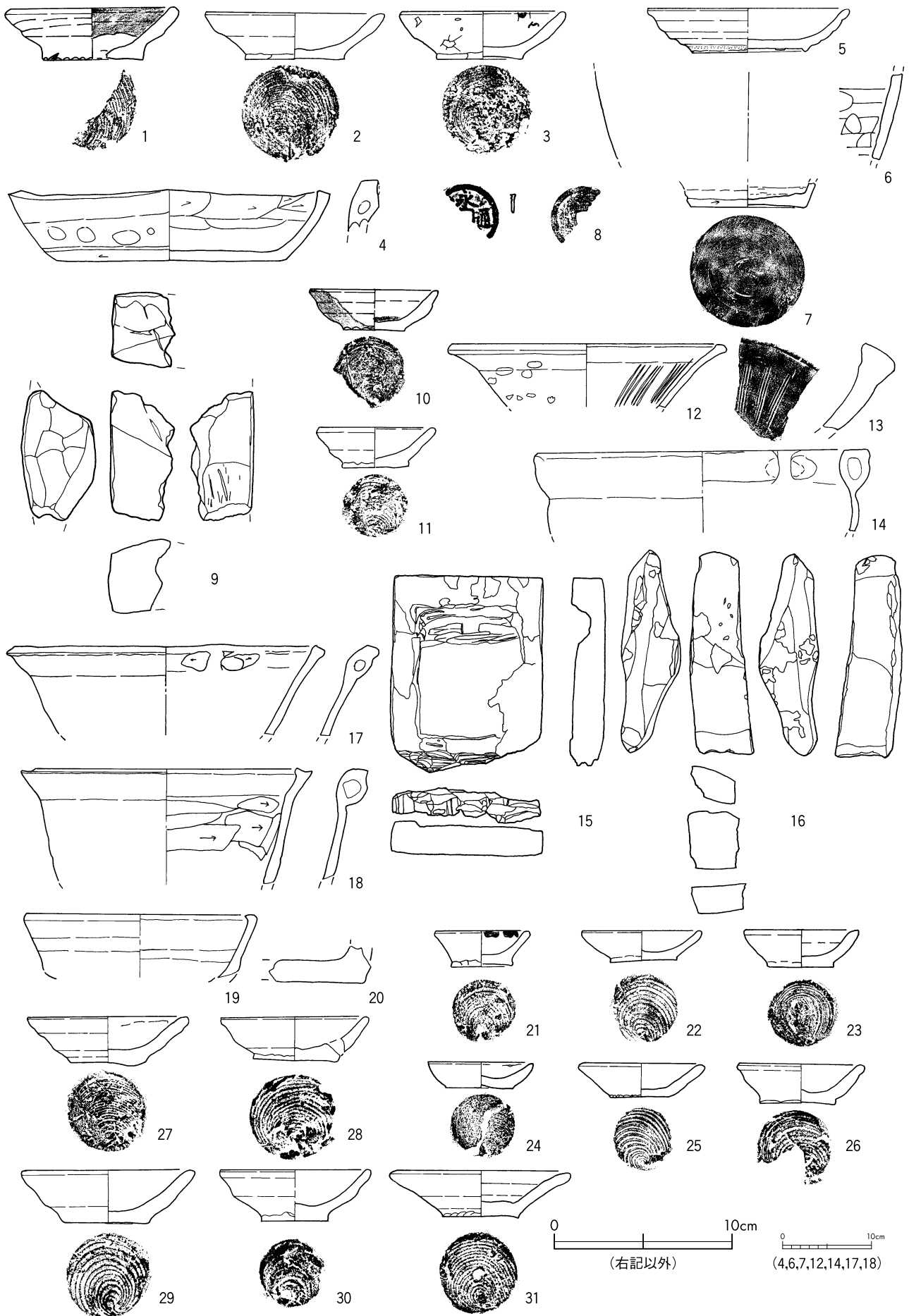
位置 調査区やや西寄りに位置し、1号土坑と接する。北西から南東に向けて中心軸を持つ。試掘調査で発見された遺構で、主室周縁の天井部分の残りが良かったため、天井を残しながら調査を行った。**規模** 竪坑は持たないが、主室の南側に昇降用と思しき段1段を有する。主室は最大で縦約2.8×横3.65mを測る。全体図上の北側の段差は、天井の掘り残し部分である。**覆土** 最下層の1層は、焼土・炭化物・灰白色の粘土塊を含む。2・3層は天井部の崩落した土砂の可能性はある。4層以上で遺物が多く出土しており、中でも南東寄りからはヤマトシジミが斜位に厚く堆積する状態が見られた^{註4}。天井崩落で陥没した状態を利用して、貝や土器などを廃棄したものと推定される。**出土遺物** 上・中層から下層にかけて、土師質土器（内耳鍋・皿・播鉢等）、瓦質土器（内耳鍋・深鉢）、土錘、古瀬戸^{註5}（祖母懐茶壺）、瀬戸美濃系陶器（大窯期：丸皿・徳利）、石製品（砥石・硯）、銭等が出土した。**所見** 上面観が不整形だが、中世後半に常総台地に盛行した地下式坑の一つと考えられる。年代的には、下層での永楽銭と瀬戸美濃系灰釉丸皿の供伴から16世紀代と判断できる。土器皿の形状がつくば市小田城跡1・2面^{註6}や土浦城跡本丸土塁最下層^{註7}と類似し、器高の低い内耳鍋と並存する事と陶器の生産年代を踏まえると、16世紀でも中葉にしぼることが可能である。

2号地下式坑【旧SX-3】

位置 調査区中央やや東寄りに位置し、西から東にかけて主軸をもつ。主室周縁部の天井の遺存状態が良いため、天井部を残して調査を行った。**規模** 竪坑は持たないが、西側に出入口と思しき段差が3段確認された。主室は最大で縦2.6×横2.8mを測る。**覆土** 最下層の1層目は一定量の炭化物・焼土粒を含む。2層目は天井の崩落土である。覆土中位には取り上げはできなかったが骨片が観察しえた。**出土遺物** 少量だが、天井崩落土下から土師質土器（皿・内耳鍋）が出土している。**所見** 上面観が不整形だが、中世後半に常総台地に盛行した地下式坑の一つと考えられる。年代的には出土遺物から16世紀代と判断される。

3号地下式坑【旧SX-4】

位置 調査区北側隅部に位置する。表土除去中に発見され、調査エリアを可能な位置まで拡張して調査を行った。底面は、確認面から下約1.8mに至り、粘土層まで掘り窪められる。**規模** 主室は細長い形状で、東西の壁際は外反気味に立ち上がり、最大で縦4m×横1.8mを測る。南側には約1×0.8mの竪穴が付属する。**覆土** 粘質の褐色土が主体をなす。**出土遺物** 土師質土器皿が出土したが、内底面にはウズマキ状のナデを施す点で、1号地下式坑出土のものと形状をやや異にする。美浦村木原城跡等、稲敷郡には類似する形態の土器皿が散見される。**所見** 出土遺物から16世紀代の遺構と判断され

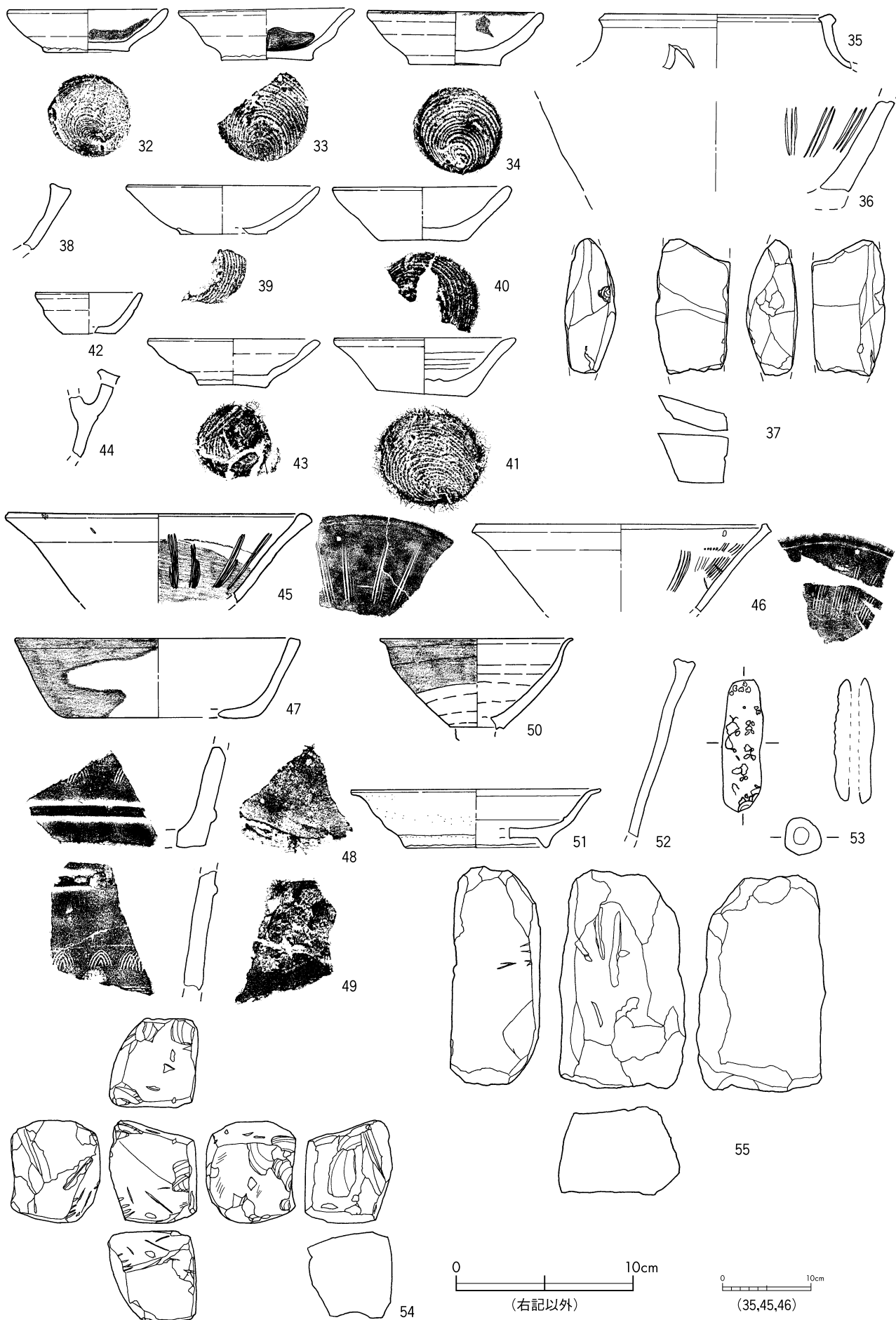


第3図 下高津小学校遺跡第3次調査 出土遺物(1)

表1 下高津小学校遺跡第3次調査 出土遺物観察表(1)【土器・陶磁器】

No.	器種 器形	法量(cm)	出土位置 残存率	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	備考
1	土師質土器 皿	A:[9.8] B:5.6 C:2.9	1号地下式 坑下層 50%	長石	2次焼 成	外面黒色～ にぶい赤褐 色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ	内面に煤の 跡
2	土師質土器 皿	A:10.0 B:5.5 C:2.6	1号地下式 坑下層 完形	長石・石英	良好	にぶい黄橙 色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ、内底面横ナデ。底部境 に粘土のめくれ痕	
3	土師質土器 皿	A:9.2 B:4.7 C:2.6	1号地下式 坑下層 完形	長石・石英	普通	橙色	底部回転系切痕。体部内外面 回転台ナデ調整。内底面ナデ	口縁部内面 に煤付着
4	土師質土器 内耳鍋	A:35.2 B:34.4 C:8.7	1号地下式 坑下層 60%	長石	普通	にぶい赤褐 色	体部外面は全体にナデ調整を 施す。底面寄りを横ナデ。内面 は横ナデ、内底面はナデ。内面 に耳は2箇所遺存。破面から判 断すると穿孔後に粘土紐を接合 させる。外底面は破損が著しい	体部外面煤 付着
5	瀬戸美濃系 陶器 灰釉丸皿	A:[11.2] B:[6.4] C:2.4	1号地下式 坑下層 25%	良土	良好	釉:灰オリー ブ色、胎芯: 灰色	高台接地面を除き、全面施釉。 高台内面には胎土目、体部外 面のロクロ目はややきつい。輪 高台から緩やかに立ち上がる	大窯第2段 階後半
6	古瀬戸 鉄釉祖母懷 壺	C:(9.5)	1号地下式 坑下層 15%	良土	良好	内面灰褐 色、外面にぶ い橙色	胴部。体部内面は輪積みの上 横ナデ、外面はナデ。外面鉄釉 を施す	古瀬戸後期
7	瀬戸美濃系 陶器 鉄釉徳利	B:[12.7] C:(2.5)	1号地下式 坑下層 15%	良土	良好	内面灰褐 色、外面にぶ い橙色	底部。底面は回転ヘラ切の上、 一部ナデ調整。体部底面寄り は横位にヘラ等による面取り	大窯第3段 階。外底面 から一部体 部に煤付着
10	土師質土器 小皿	A[7.2] B 3.4 C 2.2	1号地下式 坑上・中層 60%	長石・雲母	不良	外面にぶい 橙色、胎芯 黒褐色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ	外面・内底 面に煤付着
11	土師質土器 小皿	A:6.6 B:3.3 C:2.2	1号地下式 坑上・中層 完形	長石	普通	橙色	底部回転系切痕、一部に粘土 のめくれ。内外面回転台ナデ。 体部外面中央に横位の沈線	
12	土師質土器 搦鉢	A:[30.8] C:(7.0)	1号地下式 坑上・中層 10%	長石・石英・ 雲母・赤色 スコリア	普通	にぶい黄褐 色	口縁部片。外面ナデ、内面ナデ の上に4条の搦目、下半は摩耗 する。緩やかに立ち上がり、外 反する。口唇端部は肥厚	
13	土師質土器 搦鉢	C:(5.2)	1号地下式 坑上・中層 10%	長石・石英・ 雲母	普通	にぶい褐色	外面は器表が荒れる。内面ナ デ、一部卸目あり。口唇部に従 い肥厚し、上端は面取り	
14	土師質土器 内耳鍋	A:[36.4] C:(9.0)	1号地下式 坑上・中層 15%	長石・石英・ 雲母多量	良好	にぶい赤褐 色 明褐色	口縁部片。外面はナデ調整で、 口縁寄りは横ナデ。内面は横ナ デで、返りの部分でやや外反す る	外面煤付着
17	瓦質土器 内耳鍋	A:[35.2] C:(9.7)	1号地下式 坑上層 20%	長石	普通	黒褐色～に ぶい黄褐色	口縁部～体部片。口縁部は縁 帯状に突出。内面は横ナデを基 調とし、口縁部寄りはやや膨ら みをもつ。返りの凹凸は無い	体部外面に 煤付着
18	土師質土器 内耳鍋	A:[28.6] C:(12.6)	1号地下式 坑上層 15%	長石・雲母 多量	普通	にぶい褐色 褐色	口縁部～体部片。体部外面に 煤付着。内面は横ナデを基調と し、返りの部分で大きく外反す る。内外面とも口縁端部はやや 突出気味	
19	土師質土器 皿?	A:[13.0] C:(3.5)	1号地下式 坑上層15%	長石・石英・ 雲母	普通	にぶい褐色	内外面ナデ調整。口唇端部は 僅かに内側に折れ曲る	
20	瓦質土器 深鉢	C:(2.0)	1号地下式 坑上層2%	長石	普通	器表黒色、 胎芯赤褐色	平底の底部片。器表は燻される	
21	土師質土器 小皿	A:5.3 B:3.5 C:1.9	1号地下式 坑覆土 完 形	長石・雲母	普通	にぶい赤褐 色	底部回転系切痕、一部粘土めく れ痕。内外面回転台ナデ	貝集積と供 伴。口唇部 内面に煤
22	土師質土器 小皿	A:6.6 B:3.8 C:1.7	1号地下式 坑覆土 95%	長石・石英	不良	黒褐色	底部回転系切痕、切り離し時に 底面に歪み。内外面回転台ナデ	
23	土師質土器 小皿	A:6.4 B:3.4 C:2.0	1号地下式 坑覆土 完形	長石・石英	普通	にぶい黄橙 色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ、内面横ナデ。	

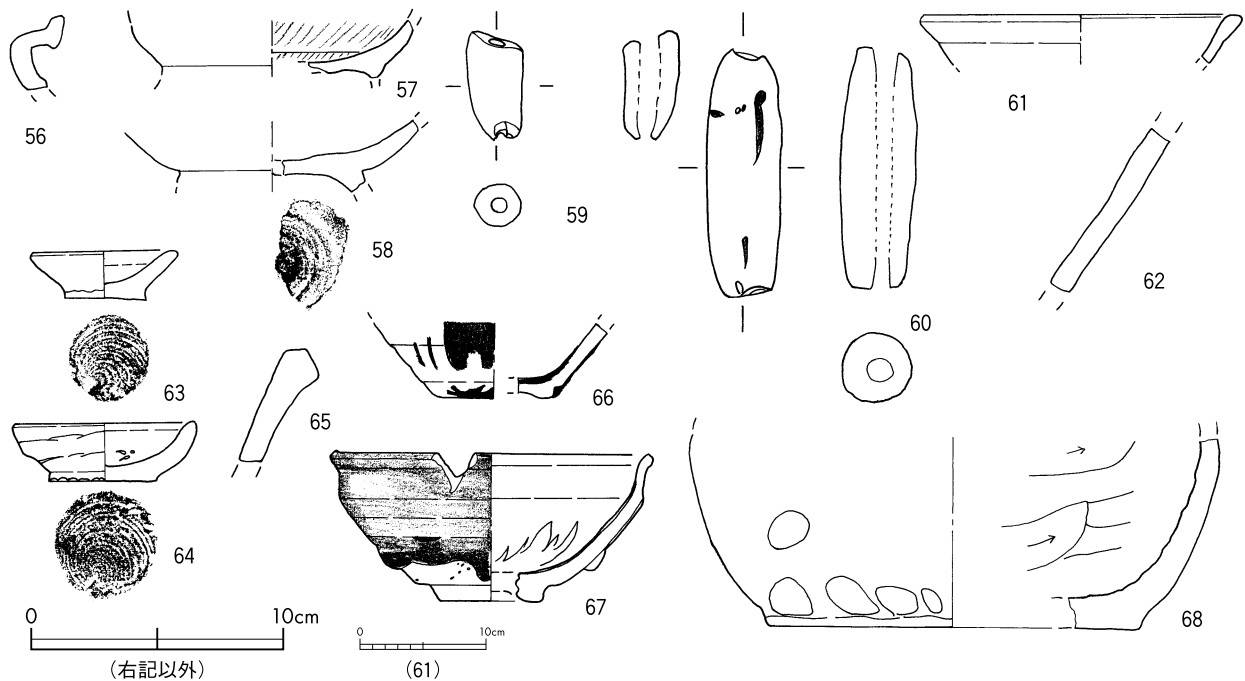
※法量欄、〔 〕内は復元値、()内は残存値を表す。



第4図 下高津小学校遺跡第3次調査 出土遺物(2)

表2 下高津小学校遺跡第3次調査 出土遺物観察表(2)【土器・陶磁器】

24	土師質土器 小皿	A: 5.8 B: 3.8 C: 1.4	1号地下式 坑覆土 90%	長石・石英	普通	にぶい橙	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ、口唇部内面に部分的に 沈線状の凹み	
25	土師質土器 小皿	A: 7.0 B: 3.3 C: 1.7	1号地下式 坑覆土 60%	長石	普通	橙色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ、口縁部外面に稜	
26	土師質土器 小皿	A: 7.0 B: 4.2 C: 2.2	1号地下式 坑覆土 60%	長石・石英・ 赤色スコリ ア、小礫	普通	にぶい赤褐 色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ、口唇部内面に部分的に 沈線状の凹み	
27	土師質土器 皿	A: 9.0 B: 4.2 C: 2.8	1号地下式 坑覆土 80%	長石・赤色 スコリア	普通	橙色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ、体部外面は口クロ目が 強い	鹿行地域の かわらけ か？
28	土師質土器 小皿	A: 8.2 B: 4.8 C: 2.4	1号地下式 坑覆土 完形	長石・石英・ 雲母	普通	にぶい赤褐 色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ、体部に1か所焼成前に 穿孔(混和礫が抜け落ちる?)	
29	土師質土器 皿	A: 9.6 B: 4.8 C: 3.0	1号地下式 坑覆土 95%	長石・石英	普通	明赤褐色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ、口縁部外面に微かに溝 状の凹み	
30	土師質土器 皿	A: 8.4 B: 3.8 C: 2.8	1号地下式 坑覆土 50%	長石	普通	にぶい赤褐 色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ、体部外面中位に稜、内 底面に同心円状のナデ	
31	土師質土器 皿	A: 10.0 B: 4.3 C: 2.5	1号地下式 坑覆土 60%	長石・石英・ 赤色スコリ ア	普通	赤褐色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ、両面とも口クロ目が僅 かに残る。内底面に僅かに渦巻 状のナデ。	
32	土師質土器 皿	A: 9.0 B: 4.8 C: 2.4	1号地下式 坑覆土 70%	長石・石英	不良	浅黄橙	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ、内底面横ナデ。	内面に胎芯 まで墨が浸 透した跡
33	土師質土器 皿	A: 9.8 B: 5.3 C: 2.8	1号地下式 坑覆土 60%	長石・石英	普通	にぶい褐色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ、体部外面に稜	内底面に油 煙の痕
34	土師質土器 皿	A: 9.8 B: 5.0 C: 3.0	1号地下式 坑覆土 完形	長石・石英	普通	にぶい赤褐 色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ、口縁部外面に横ナデに よる溝状の凹み	内面に煤の 跡
35	土師質土器 壺甕類	A: [25.0] C: (6.0)	1号地下式 坑覆土 5%	長石・石英・ 雲母・赤色 スコリア	普通	にぶい褐色	頸部から緩やかに立ち上がる 口縁部片。口縁部外面は面取ら れて斜めに凸出する。上端面取 られ、内面側は浅く窪む。体部 破断面が挟まれる	
36	土師質土器 擂鉢	C: (5.1)	1号地下式 坑覆土 5%	長石	普通	にぶい褐色	底部破片。外面はナデで、底部 寄りには面取り。内面は摩耗が 著しく、卸目は4条	
38	土師質土器 内耳鍋	C: 3.8	2号地下式 坑天上下 10%	長石・石英・ 雲母	普通	褐色 明褐色	口縁部片。外面一部煤付着。内 面横ナデ、口唇部はやや突出	天井崩落土 より下位から 出土
39	土師質土器 皿	A: 10.8 B: 4.8 C: 2.7	2号地下式 坑天上下 25%	黒色鉱物多 量	堅緻	橙色	底部回転系切痕。内外面回転 台ナデ。全体に薄手である	天井崩落土 より下位から 出土
40	土師質土器 皿	A: 10.0 B: 4.8 C: 2.9	3号地下式 坑覆土 45%	長石・石英・ 赤色スコリ ア	普通	灰褐色	底部回転系切痕。斜めに立ち上 がり、口縁部で肥厚する。内外 面は回転台ナデ。内底面には欠 落あるも、渦巻状のナデと推 定。	
41	土師質土器 皿	A: 10.2 B: 5.2 C: 3.2	3号地下式 坑覆土 60%	長石・石英・ 雲母・赤色 スコリア	普通	にぶい橙	底部回転系切痕。斜めに立ち上 がり、外反する。内外面は回転 台ナデ。内底面に渦巻状のナ デ。	
42	土師質土器 小皿	A: [6.0] B: [3.0] C: 2.3	1号土坑覆 土 20%	長石	不良	にぶい橙	底部回転系切痕。斜めに立ち上 がり、体部中程で肥厚する。小 破片に割れ易い	
43	土師質土器 小皿	A: [9.6] B: [3.9] C: 2.6	1号土坑覆 土 50%	長石・石英・ 赤色スコリ ア	普通	橙色	底部回転系切痕。内外面回転 台のナデ。内面横ナデ。斜位に 開きながら立ち上がる	
44	土師質土器 内耳鍋	C: (4.0)	1号土坑覆 土 5%	長石・赤色 スコリア	普通	外面黒褐 色、内面にぶ い褐色	耳のある口縁部片。耳の下位は 体部に穴を空け、耳となる粘土 紐を通して、外部から指ナデで 接合を補強する	外面煤付着
45	瓦質土器 擂鉢	A: [34.0] C: (10.0)	1号土坑覆 土 15%	長石・雲母・ 赤色スコリ ア	2次焼 成	外面にぶい 赤褐色、内 面明赤褐色・ 黒色	底部を欠く破片で、内面のみ燻 が残る。外面横ナデ、内面はナ デの上に4条の卸目を施すも、 摩耗	



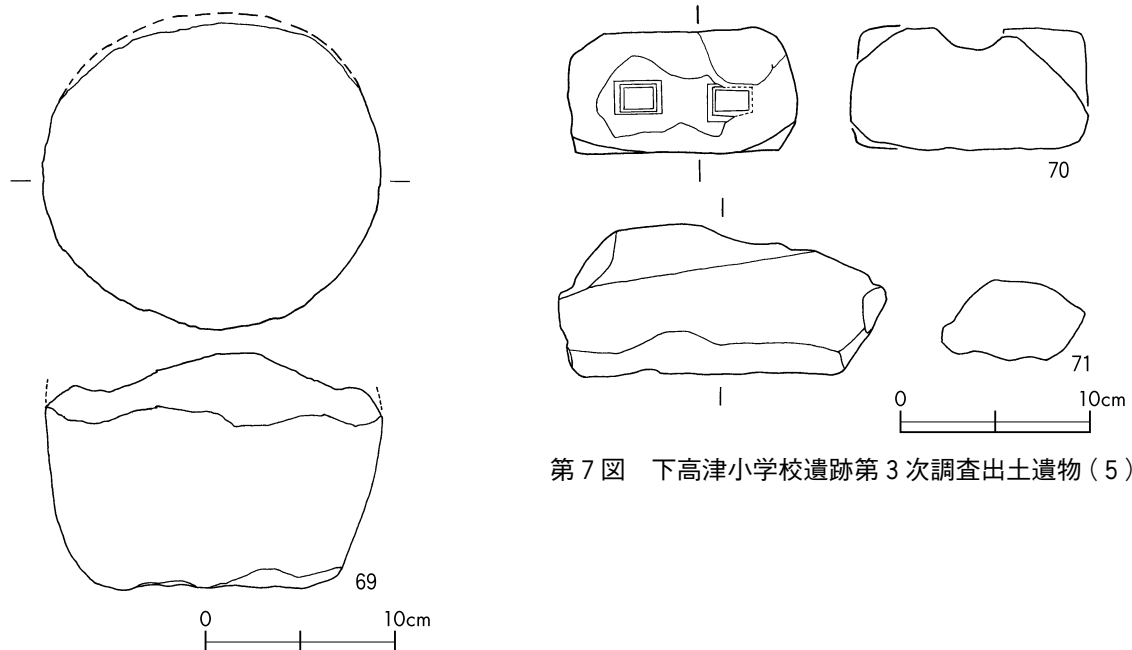
第5図 下高津小学校遺跡第3次調査 出土遺物(3)

表3 下高津小学校遺跡第3次調査 出土遺物観察表(3)【土器・陶磁器】

46	土師質土器 搗鉢	A:[33.0] C:(9.7)	1号土坑覆 土 10%	長石・石英・ 雲母・赤色 スコリア	普通	にぶい褐色	外面ナデ。内面はナデの上、5 条の木口状工具で搗目。口縁 部は外反気味になり肥厚する	
47	土師質土器 浅鉢	A:[16.0] B:[11.0] C:4.5	1号土坑覆 土 20%	長石・石英・ 赤色スコリ ア少量	普通	明褐色、外面 一部黒褐色	底部は平底。内外面ナデ調整。 外面一部煤附着	
48	瓦質土器 深鉢	C:(5.5)	1号土坑覆 土 5%	長石・石英・ 赤色スコリ ア	普通	黒色	斜位に立ち上がる体部~底部 片。外面は丁寧なナデ調整。底 面寄りには横位に粘土紐を貼り 付けて隆帯とし、3条の山形文を間 隔を空けながら、押印で連続施 文。内面ナデ	
49	瓦質土器 深鉢	C:(6.5)	1号地下式 坑上・中層 5%	長石・石英・ 赤色スコリ ア	普通	黒色	斜位に立ち上がる体部片。外面 はナデ調整。体部には横位に粘 土紐を貼り付けて隆帯とし、そ の上位に3条の山形文を間隔を 空けながら、押印で一部重複し つつ連続施文。内面器表荒れる	
50	瀬戸美濃系 陶器(初山) 鉄釉天目	A:[10.8] B:[3.0] C:(5.0)	1号土坑覆 土 10%	堅緻	普通	釉葉黒色、 胎土灰色	内面~口縁部外面に鉄釉施 釉。底面高台寄りには削りで面取 り。口唇部は減厚しながらS字 状に外反	大窯第3段 階後半
51	白磁 端反皿	A:[14.0] B:[8.1] C:3.2	1号土坑覆 土 20%	胎土灰白 色、黒色微 粒子	普通	灰白色	高台接地面を除き、全面施釉。 体部全体に所々にすが入る。丸 みをもち立ち上がる体部から口 縁部は大きく外反する	16世紀代
52	土師質土器 内耳鍋	C:(9.5)	1号土坑覆 土 10%	長石・石英・ 雲母	良好	外面灰褐 色、内面にぶ い褐色	口縁部片。外面体部寄りにはナ デ、口縁部寄りには横ナデ。内面 横ナデ	外面一部煤 附着
53	土製品 土錘	長:7.5、幅: 2.0、厚:2.0	1号土坑覆 土 完形	長石	普通	にぶい橙色	一部表面がクレーター状を呈す る。指等による圧痕あり	
56	土師器 甕	C:(3.1)	遺構外 2%	長石・石英・ 雲母	普通	にぶい黄橙 色、外面一 部明赤褐色	口縁部片。内外面ナデ調整。口 縁部は外反し、上端が摘み上げ られる。	古代常総甕
57	土師器 内黒坏	C:(2.2)	遺構外 15%	長石	普通	にぶい橙色、 内面黒色	底部破片。内外面回転台ナデ 調整。内面黒色処理の上、不特 定多数の方向でヘラミガキ	9~10世紀 代
58	土師器 高台付坏	C:(3.2)	遺構外 15%	長石	普通	にぶい橙色	内外面回転台によるナデ調整。 付高台	黒色処理無 し
59	土製品 土錘	長:(4.2)、幅: 2.2	遺構外 90%	長石	普通	橙色	穿孔は焼成前で、その後半裁 し、平滑化される。	

表4 下高津小学校遺跡第3次調査 出土遺物観察表(4)【土器・陶磁器】

60	土製品 土錘	長:9.3、幅: 2.7	試掘調査10 トレンチ 95%	長石粉	普通	灰色	還元焰焼成で須恵質である。上 下端面は平坦化	
61	常滑 片口鉢I類	A:[25.0] C:(3.7)	遺構外 5%	長石・石英	普通	灰色	口縁部片。内外面ナデ調整。口 唇部は外反しながら肥厚し、沈 線をもつ。	鎌倉時代後 半
62	渥美 壺甕類	C:(6.8)	遺構外 10%	良土 長石	普通	黄灰色	体部片。外面ナデ、内面横ナ デ。	平安末から 鎌倉
63	土師質土器 小皿	A:5.7 B:3.2 C:1.9	表土 70%	長石・石英	普通	にぶい褐色	底部回転系切痕。内外面ナデ 調整。内底面ナデ。体部内面に 沈線状の凹み	
64	土師質土器 小皿	A:[7.2] B:4.2 C:2.3	表土 80%	長石・雲母・ 赤色スコリ ア微量	普通	にぶい黄褐 色	底部回転系切痕。内外面ナデ 調整。内底面横ナデ。内面に数 点粘土粒の付着あり	
65	土師質土器 内耳鍋	C:(4.1)	表土 5%	長石・石英 多量、雲母	普通	褐色	口縁部片。外面煤付着、ナデ。 内面:ナデ。口唇部は2面の面 取り	
66	古瀬戸 鉄釉天目	C:(3.0)	試掘調査6 トレンチ 10%	良土	良好	胎芯灰白 色、釉茶色 ~黒色	外面の釉は高台を覆うほど多量 に付着。内底面の釉も厚い。内 底面は多数の削痕がある。内反 高台	古瀬戸後II 期
67	瀬戸美濃系 陶器 鉄釉天目	A:[12.8] B:[3.8] C:5.8	試掘調査10 トレンチ 50%	良土	良好	胎芯橙色、 釉褐色	削り高台から緩やかに立ち上が り、口縁部で屈曲する。外面の 釉は滴状に垂れる。口縁部の割 れは磨られている	大窯第4段 階前半
68	土師質土器 壺・甕類	B:[14.6] C:(7.5)	1号土坑覆 土 10%	長石・石英 少量	普通	橙色	体部~底部片。外面ナデをは ナデを基調とし、底部寄り是指頭 痕。煤付着。内面粗い横ナデ。	



第6図 下高津小学校遺跡第3次調査
出土遺物(4)

第7図 下高津小学校遺跡第3次調査出土遺物(5)

表5 下高津小学校遺跡第3次調査 出土遺物観察表(5)【石製品・金属】

No.	器種 器形	法量(cm)	出土位置 残存率	形状・技法上の特徴	備考
8	銅銭 永楽通宝	—	1号地下式坑下層 40%	「永」「通」の部分のみ残存。薄い。4の内耳鍋と近接して出土する	
9	石製品 砥石	長7.2、幅3.5、厚4.1	1号地下式坑下層 100%	凝灰岩製。線状の痕跡あり	重112.1g
15	石製品 硯	長10.9、幅8.4、厚1.7	1号地下式坑上・中層 100%	粘板岩性。海部内面は削り痕のみで研磨せず。陸部は研磨される。下面にノミの削り痕明瞭	重334.2g
16	石製品 砥石	長11.2、幅2.8、厚3.2	1号地下式坑上・中層 100%	凝灰岩製。線状の痕跡あり	重127.4g
37	石製品 砥石	長7.6、幅3.9、厚2.8	1号地下式坑覆土 100%	凝灰岩製。表裏に砥面、左右に素材時の切開面が残る	重105.2g
54	石製品 砥石	長5.7、幅4.5、厚5.0	1号土坑覆土 100%	凝灰岩製。6面全体を砥面とする	重200.3g
55	石製品 砥石	長12.1、幅4.8、厚7.0	1号土坑覆土 100%	凝灰岩製。砥面は表と左側面の2面。裏面はノミの削り成形面。上下両端は破損部である	重600g
69	石造五輪塔 空風輪	横幅(17.5)、縦長(12.2)、厚(15.8)	1号地下式坑覆土 100%	花崗岩製。風輪部の下半のみ残存。側面は約1/3程表面を破損し、断面観は楕円形。風化が著しい	
70	石造宝篋印 塔基礎	横幅(24.0)、縦長(12.5)、厚さ(25.2)	試掘調査出土 100%	花崗岩製。表面は風化が激しい。側面に格狭間を2箇所刻み、その外郭は溝状を呈する。上方にほぞ穴を穿つ	
71	石製品 砥石	横幅(34.2)、縦長(15.5)、厚さ(8.5)	1号土坑覆土 100%	片磨岩製。上方三面が砥面。下面は調整無し	

る。主室の深度があり竪坑を伴う点から、地下式坑の一つとして報告するが、主室の形状が細長く通常の形態と異なる点からは、土坑に類すべき可能性を残す。

1号土坑【旧SX-2】

位置 調査区中央やや西寄りに位置し、1号地下式坑と接する。北西から南東にむけて中心軸を持つ。主軸は南北からやや東にふれる。**規模** 平面が隅丸方形の土坑である。最大で4.3×2.7mを測る。地山から下70～50cm程掘窪められ、底面はほぼ平坦である。**覆土** 粘土層まで掘り込まれているが、覆土全体に砂が含まれる。中位にはブロック状に砂が認められた。**出土遺物** 土師質土器(皿・内耳鍋・播鉢)、瓦質土器(播鉢・深鉢)、瀬戸美濃系陶器大窯期の天目、白磁皿、花崗岩製五輪塔空風輪等が出土した。土器の形状は1号地下式坑出土品と類似する。**所見** 年代的には瀬戸美濃と白磁から16世紀代とみなし得るが、土器形状の類似から1号地下式坑と等しく16世紀中葉にしぼることができる。1号地下式坑と接する関係から、何らかの点で両者が相互に関連していた可能性もある。

2号土坑【旧SK-1】

位置 調査区中央の北壁沿いに位置する。**規模** 壁沿いに長軸上に対照的に2基ピットを伴う、方形の土坑である。最大で1.35×1mを測る。掘り込みは確認面から下15～10cmだが、ピットは更に約20cm程下がる。**覆土** ロームを含む褐色土を主体とする。**出土遺物** 無し。**所見** 出土遺物は無いが、周囲の遺構の状況から中世の土坑であると考えられる。

4 まとめ

今回の発掘調査では、中世後半でも16世紀を中心とする遺構が発見された。その中心は3基の地下式坑で、学史的に埋葬に関わる遺構か地下倉か、利用形態に論争があった。前者の場合、他の関連する遺構として溝や井戸・埋葬墓等が見られ、石塔の一部等も伴出する場合もある。後者の場合、城館遺跡の曲輪内部に設置され、配列に一定の規則性を見出すことができることもある。その意味では、当調査は前者の範疇に収まる事例といえる。

注目すべきは、今回の地下式坑の掘削深度が関東ローム層以下の常総粘土層深くに至っていることだ。中でも1号は粘土層以下の砂層まで掘り込まれている。調査地は立地的に台地の縁辺部で台地に食い込む谷頭に当たるため、当初から緩やかな傾斜を持ち、ロームの堆積は薄い場所である。粘土層は比較的安定しているため、崩落等破壊の危険性は乏しいかもしれないが、砂層は粘性や締りに乏しいため掘削当時から崩れやすい恐れがある。地下式坑掘削当時から、安定した地盤に底面を設けなくても良とし、崩落のリスクを侵しても可としていたかという疑問が残る。

また、茶道具・硯・墨を溜めた土器皿等、出土品の中には社会的に上位で識字層の存在を感じさせるものが見られた^{註8}。当遺跡の西にある寄居遺跡の発掘調査^{註9}でも今回同様、地下式坑群から多数の土器皿や天目茶碗・中国産青磁・硯等が出土している。高津の地は城館では無いものの、古代東海道や鎌倉街道・旧水戸街道が近くを走る等、古くから交通の要衝の地に当たり、常陸富有人注文に高井郷として記載がある^{註10}等、中世から発達した集落の存在が予想される地域である。

また16世紀代は、土浦城が文献資料に活発に姿を現し、現代土浦の中心市街地の原形が成立する時期でもある。今後は高津台から中央・真鍋台一帯を含め、桜川沖積低地の開発・集住と台地上の集落や墓域の変遷等を踏まえて、周辺の遺跡・石碑・伝承等を加味した検証が今後の課題である。

◎ 註

註1 報告書は未刊。市教育委員会の直営調査で、明確な遺構は発見されなかった。古墳時代の土師器、奈良・平安時代の土師器・須恵器、中世後半の土師質土器（皿・内耳鍋）・古瀬戸平碗等が出土した。

註2 『下高津小学校遺跡』2013年 編集毛野考古学研究所 発行土浦市教育委員会

註3 測量原図や注記等は旧番号で記しているため併記した。

註4 ヤマトシジミの出土量は約4kgを量る。極少量マルタニシとハマグリが見られた。

註5 当遺跡出土の古瀬戸及び瀬戸美濃系大窯製品については、愛知学院大学文学部の藤澤良祐教授にご教授いただきました。記して感謝申し上げます。

註6 『史跡小田城跡—第29次・31次（本丸跡確認調査）概要報告—』1999年つくば市教育委員会

註7 『史跡土浦城跡 茨城県指定史跡土浦城跡の整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2002年土浦市教育委員会

註8 ただし硯は整形途上で廃棄された資料であるため、識字層の存在よりも手工業者の存在を反映するものかもしれない。また墨を溜めた土器皿は硯の代用品であり、臨時的な利用にすぎない。

註9 『文化財調査報告第84集 寄居遺跡 うぐいす平遺跡』1994年財団法人茨城県教育財団

註10 「常陸国富裕人注文の基礎的考察」1993年小森正明『茨城県史研究』71号に詳しい。

◎ 参考文献

「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」藤澤良祐2002年財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第10輯



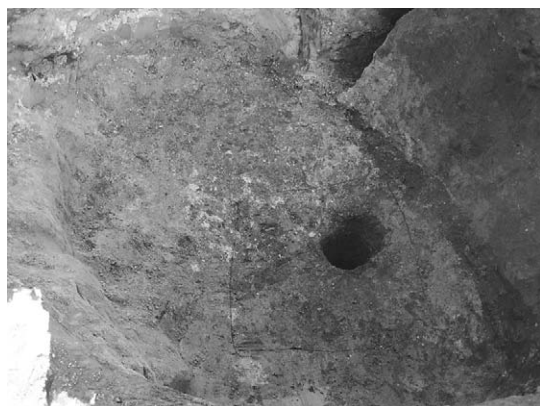
表土掘削状況



遺構検出状況



1号土坑・1号地下式坑(奥)



1号地下式坑 底面



1号地下式坑土層断面



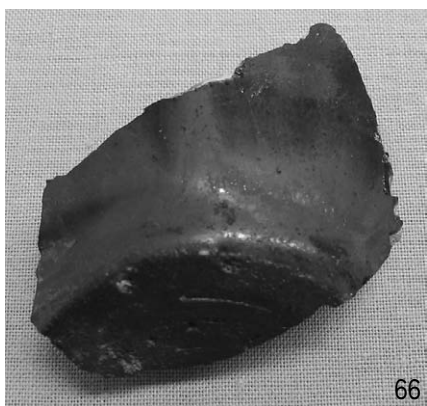
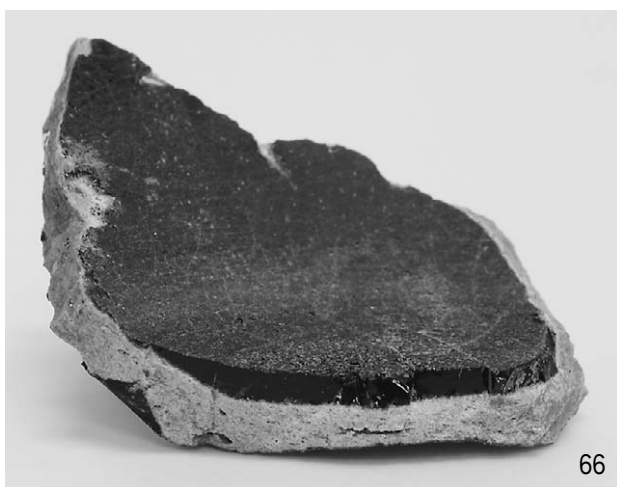
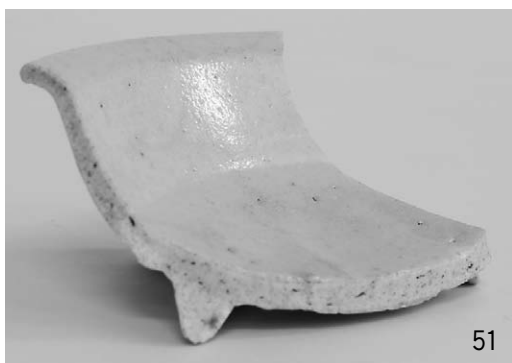
2号地下式坑



3号地下式坑土層断面

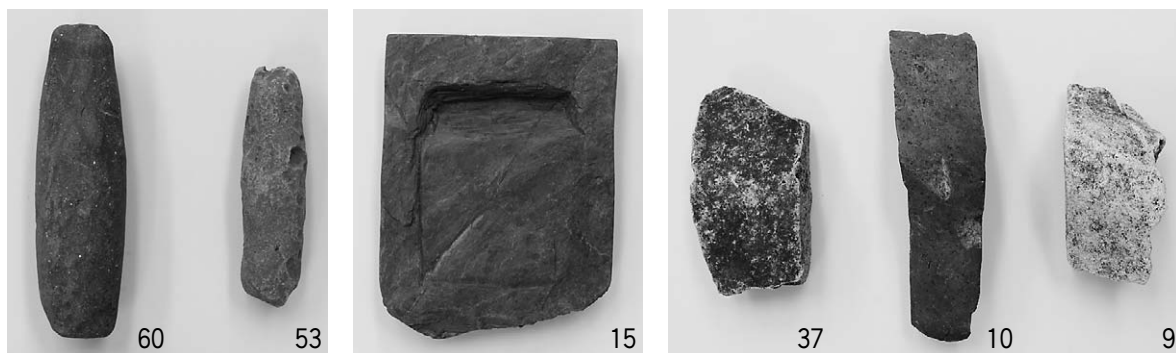


2号土坑





1号地下式坑出土土器皿



報告書抄録

ふりがな	かみたかつかいつかふるさとれきしのひろばねんぼう							
書名	上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報							
副書名								
巻次	第20号							
シリーズ名								
編著者名	比毛 君男・亀井 翼・宮窪 ひろみ							
編集発行機関	上高津貝塚ふるさと歴史の広場（土浦市教育委員会）							
所在地	〒300-0811 茨城県土浦市上高津1843 TEL 029(826)7111							
発行年月日	2015(平成27)年3月13日							
ふりがな	ふりがな	コード		経緯度(新)		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	2013年 11月12日～ 11月26日	約180m ²	アパート 建築
しもたかつしょう 下高津小 がっこう 学校遺跡	つちうらししもたかつ 土浦市下高津 二丁目746-4外	203	100	36° 4' 32"	140° 4' 6"			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
手野新掘 遺跡	墓地	中世	地下式坑3基, 土坑2基		土師質土器, 瀬戸美濃 系陶器, 白磁皿等		台地縁辺に16世紀代 の地下式坑が点在。	
要約	骨粉・石塔の出土等から当例の地下式坑は葬送関連に用いられたと判断される。茶壺 や天目・硯等の出土からは, 社会的上位層の存在を推測させる。							